

# 郡山市公共下水道雨水管理総合計画（案） 概要版

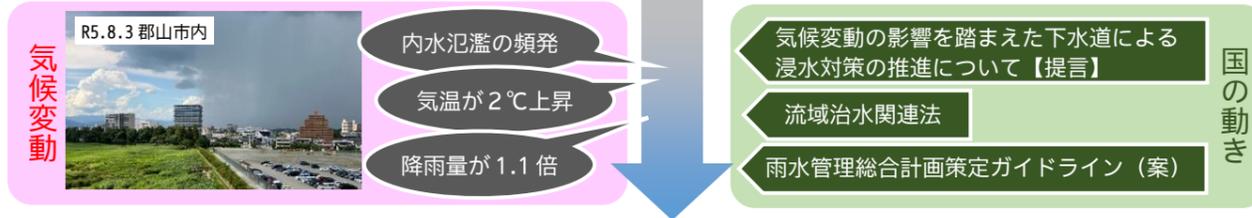


## 1. 雨水管理総合計画とは

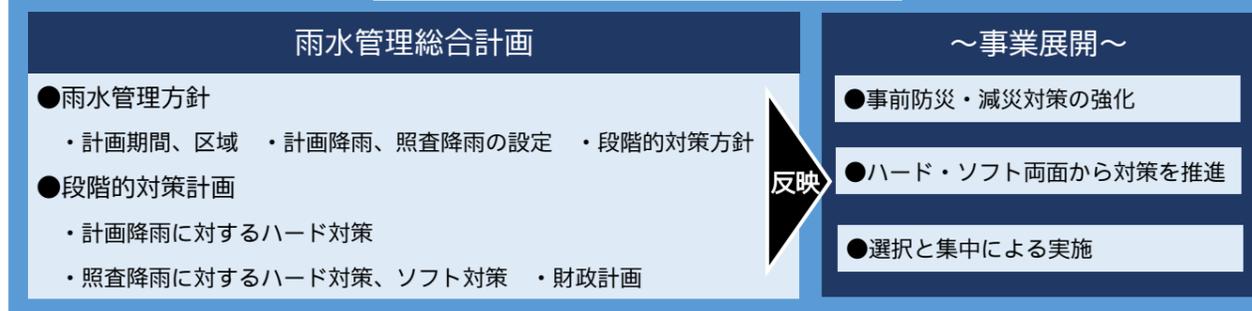
雨水管理総合計画は、下水道による浸水対策を実施する上で、当面（概ね5年後）・中期（概ね10年後）・長期（概ね20年後）にわたる下水道による浸水対策を実施すべき区域や目標とする整備水準、施設整備の方針等の基本的な事項を定めるものです。

### 郡山市ゲリラ豪雨対策9年プラン 平成26（2014）年度～令和4（2022）年度

従来の計画降雨を超える、いわゆる「ゲリラ豪雨」に対し、河川事業と下水道事業に加え、住民（団体）や民間企業等の参画のもと、浸水被害の軽減を図る。



## 気候変動の影響を踏まえた浸水対策方針



## 2. 気候変動の影響を踏まえた計画降雨の算定（ハード対策の目安）

「計画降雨」は、施設整備の目標となる降雨です。今回は、国が示す雨水管理総合計画策定ガイドライン（案）に基づき、気候変動の影響を考慮した計画降雨を算定しました。

気候変動の影響を考慮した計画降雨  
**50mm/h (10年確率)**

なお、郡山市ゲリラ豪雨対策9年プランにより雨水貯留施設等を整備した地区については、従来通り 58mm/h とします。

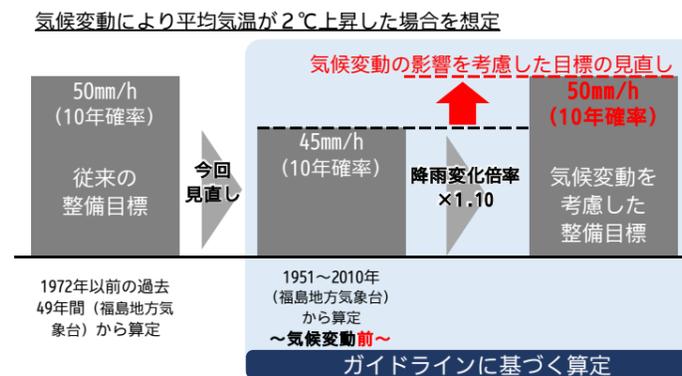


図1：気候変動の影響を考慮した計画降雨の算定

## 3. 照査降雨の設定（ソフト対策の目安）

計画降雨を上回る降雨のうち、減災対策の対象とする降雨として「照査降雨」を設定します。

照査降雨	設定	備考
照査降雨①	74mm/h	H22.7.6豪雨(過去最大の内水氾濫被害) ⇒ 内水ハザードマップの対象降雨)
照査降雨②	120mm/h	国のマニュアル*に基づき設定した想定最大規模降雨

\*浸水想定(洪水、内水)の作成等のための想定最大外力の設定手法(H27年7月国土交通省)

## 4. 段階的対策方針

ハード対策（計画降雨に対する施設整備）とソフト対策（減災のための取組）を組み合わせ、当面・中期・長期の段階に応じた対策方針を設定します。

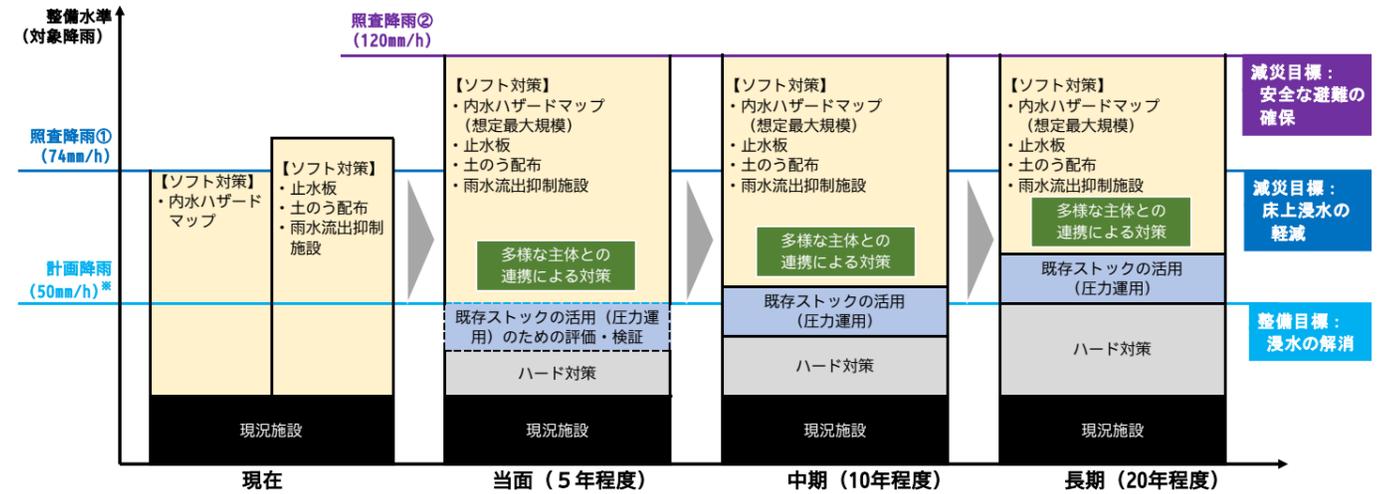


図2：段階的対策方針

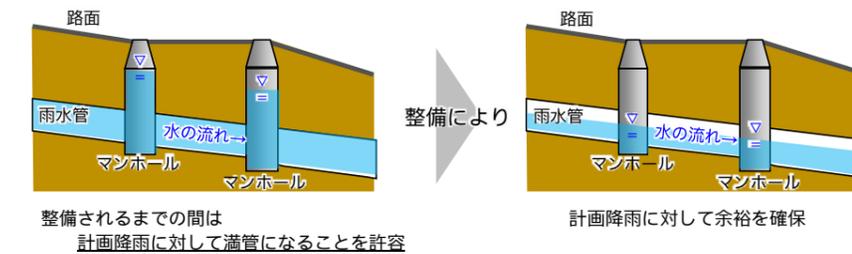


図3：圧力運用のイメージ

整備されるまでの間は管が満管になることを許容するため、必要な評価・検証を進めます。



郡山市下水道キャラクター くまっち

## 5. 段階的対策計画

現在の整備状況やリスクマトリックス評価から各排水区の整備検討優先度を設定し、当面・中期・長期の時間軸を考慮したハード対策のスケジュールを整理します。

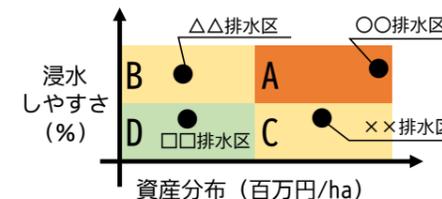


図4：リスクマトリックスのイメージ



図5：整備検討優先度と時間軸設定のイメージ

## 6. 定期的な点検・見直し（CAPD サイクル）

本計画は、浸水被害発生状況や対策の進捗等を勘案し、5年に1回程度の定期的な点検により見直します。

## 7. 今後のスケジュール

以下のとおり、年度内の計画策定を予定しています。



排水区ごとに優先度を設定し、時間軸を考慮した対策の推進に努めます。